

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 1	理念・目的
------	-------

総評	
0101	2013 年に、大学開学 50 周年記念夢構想事業委員（学部長を始めとする 8 名の教員と学部事務長）が学部・学科の教育研究上の目的、育成する人間像を再検討したうえで『第 1 回夢構想フォーラム』で披露し、卒業生および学外からの招待者から意見を募った。その上で、幅広い意見に基づいて、現行の学部・学科の教育研究上の目的および育成する人間像が設定された。 惜しむらくは、学部・学科の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的との関連性が必ずしも確保されていないことである。この点については、すでに学部でも十分に認識されていることから、近い将来、改善されるものと思われる[0101-0102b] [0101c]。
0102	大学ホームページ[0101c] [0102b]、『学生便覧』 [0101-0102b]などで適切に公表されている。
長所・特色 <箇条書き>	
0101	バイオサイエンスとバイオテクノロジーの主要な領域である「生命・食・環境」の観点から、「応用生物化学科・環境生物科学科・食品栄養科学科」の教育研究上の目的が簡潔明瞭に示されている[0101-0102a]。
0102	3 学科の相互関係と育成する人間像が明確に示されている[0101-0102b]。
留意点 <箇条書き>	
* 各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 2	内部質保証
------	-------

総評	
<p>0203 平成 26（2014）年度に本学が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した際に、応用生物学部の自己点検を詳細に行っている。そこでは、平成 13（2001）年度の学部発足以来の沿革が記されており、平成 17（2005）年度と平成 22（2010）年度の 2 回にわたり行われた、学部・学科の組織変更とそれに伴う教育課程の改訂の特徴が明らかにされている[0203a] [0203b]。</p> <p>これらのことから分かるように、1)学部発足から 4 年後の平成 17（2005）年度に 1 回目の教育課程の改訂、2)その 5 年後の平成 22（2010）年度には 2 回目の教育課程の改訂、3)さらに、その 4 年後の平成 26（2014）年度には日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審、と数年おきに自己点検・評価あるいはそれに準じる教育課程の改訂が行われている。</p> <p>ただし、上記 1)と 2)については学部・学科の組織変更を機に行われたものであって、仮にこのような組織変更がなかった場合にも教育課程の見直し・改訂が行われていたかどうかは不明である。また、平成 27（2015）年度以降は自己点検・評価あるいはそれに準じる教育課程の見直しや改訂は行われていない。つまり、今回の対象年度である平成 29（2017）年度に限定すると、特別な取り組みは行われなかったことになる。</p> <p>このような問題はあつたものの、これまでに行ってきた自己点検・評価あるいはそれに準じる教育課程の改訂の経験、また、全学的なピアレビューの導入、さらに、自己点検・評価に対する問題意識の高さに鑑みると、今後「内部質保証」は確実に改善されていくものと思われる。</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
<p>0203 本学が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した際、学部の自己点検を詳細に行い、教育課程の改訂の意義、その効果等を具体的に示している[0203b]。</p> <p>0203 学部発足以来数年おきに自己点検・評価あるいはそれに準じる教育課程の改訂が行われてきたこと、また、全学的にピアレビューが導入されること、さらには、学部としても改善策の策定と実施を予定していることから、「内部質保証」への積極的な取り組みが期待される[0203b]。</p>	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし	

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果（1）
-----	--------------

総評	
0401・0402	卒業認定・学位授与の方針（DP）および教育課程の編成・実施方針（CP）については、各学科・専攻における教員会議、主任会（学部長、副学部長および各学科・専攻主任により構成）、学部教授会を経て、大学協議会等の大学全体レベルでの会議で最終決定された。こうして決定された DP および CP は学部教授会で確認されたうえ、『学生便覧』、大学ホームページ等で公開されている。このように、0401 と 0402 については、体系的かつ適切に行われている[0101-0102b][0401a][0402a]。
0403	教育課程について、現状が適切である[0403a]ことにとどまらず、現状を維持・向上させていく多様なしくみ、すなわち、教育活動重点目標・自己評価シート[0403b][0403c]、教育活動顕彰制度[0403d]、授業評価[0403e][0403f]等が設けられている。
長所・特色 <箇条書き>	
0401・0402・0403	教育課程については、DP と CP が整合的に定められたうえで、CP に基づく体系的な教育課程が編成されている。[0401a][0402a] [0403a]つまり、DP から教育課程に至るまでの一貫性が担保されている。
0403	教育活動重点目標・自己評価シート[0403b][0403c]、授業評価[0403e] [0403f]等システムティックな自己点検・評価方法が確立されている。
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

ピアレビュー委員会（第3部会）

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果（2）
-----	--------------

総評	
<p>0404・0405 すべての評価項目に関して、適切な取り組みが見られる。</p> <p>履修上限の設定、シラバスに沿った授業運営、学生の主体的参加を促す授業、適切な規模のクラス編成、シラバスに沿った成績評価、成績評価の客観性、明確な卒業要件、学位審査の客観性、適切な学位授与など、いずれの項目においても、適切に取り組んでいる。</p> <p>これらの取り組みを支えるのは、各学科・専攻から選出された教務委員から構成される応用生物学部教務委員会である。この委員会は概ね毎月開催され、様々な教務事項を検討し点検する場として機能している[1120b]。</p> <p>また、卒業判定の厳格性確保のために年度末には教授会を開催し、授業内容向上のために担当者以外の第三者によるシラバス点検を行う、などの取り組みが見られる[0404c]。</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
<p>0404・0405 応用生物学部教務委員会が、教務事項に関する自己点検・評価のための組織として機能している[1120b]。</p> <p>0405 卒業判定を応用生物学部教授会でやっている[0405e]。</p>	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし	

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2018 年度 (対象年度: 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果 (3)
-----	---------------

総評
<p>0406・0407 一部の項目において、改善すべき点がある。</p> <p>学習成果に関する情報の把握と共有、エビデンスに基づく自己点検・評価、自己点検・評価結果に基づく改善・向上策などにおいて、今後改善すべき点があるように見受けられる。</p> <p>学習成果の評価に関しては、Grade Point Average (GPA) 制度が導入され、指標として利用されている [0406a]。ただ、ルーブリックなど学習成果の測定方法については、個々の教員レベルでは活用されているものの、学部・学科全体で共有される状況には至っていない。</p>
長所・特色 <箇条書き>
<p>0406 学習成果の評価に関しては、Grade Point Average (GPA) 制度が導入され、指標として利用されている [0406a]。</p>
留意点 <箇条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: right;">【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>0407 学習成果を学部全体として評価し、それに基づいた目標設定が望まれる。【B】</p>

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2018 年度 (対象年度 : 2017 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

総評	
<p>0501・0502・0503・0504 多くの項目において適切な取り組みが見られるが、一部に改善すべき点がある。          入学者受け入れの方針 (AP) の公表、AP と入試形態との整合性、適切な入学定員と在籍学生数の適正な管理、などにおいては適切に取り組んでいる[0501-0502a][0501-0502b][0503c]。          一方、入学者選抜方法と教育課程の編成・実施方針 (CP) との連関や、入試にかかわる責任所在の明確化については、今後の検討が必要である。          また、学生募集や入学者選抜方法の適切性の検証や、点検・評価結果に基づいた改善・向上について、今後実施していく必要がある。</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
<p>0503 収容定員に対する在籍学生数比率は 1.06 で、適切な充足率である[0503c]。</p>	
留意点 <箇条書き>	
<p>*各項に留意点レベルを記入</p>	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項          【B】・・・検討を要する事項</p>

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

総評	
<p>0602・0603・0604・0605 応用生物学部の教員組織の編成全般、FD 活動について、全体として適切に取り組まれている。特に教育研究活動、FD 活動は全学組織と連携を取り、十分な体制が整えられている。応用生物学部は今年度学部長が交替し、さらに学部教員の専門性や年齢を考慮した改善すべき点を検討する姿勢を打ち出している[0602a][0602b][0602c]。</p> <p>点検については全学的な取り組みとして、教員個人による自己点検・評価は年度当初と年度終わりに実施しているものの[0605a]、学部や学科単位での教員組織として、特にその体制に関する自己点検・評価をするシステムは十分でなく、今後の教員組織の体制についてエビデンスのある点検を目指している。</p>	
長所・特色 <箇条書き>	
<p>0602 教員数は適切である。(各学科が法令定員の 140%を超える専任教員を擁しており、教員当たりの学生数も 34 人程度である) [0602a]。</p> <p>0603 教員組織の編成を通じ、教育研究活動が適切に運営されている[0603a]。</p> <p>0604 FD 活動を進め、教員の資質向上に取り組んでいる[0604a][0605a]。</p>	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
0605 教員組織の適切性について、点検のための目標設定、内容の検討が必要である。【B】	

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 7	学生支援
------	------

総評	
0702	修学、学生生活、進路、キャリア支援等の全般について、詳細で適切な取り組みがなされている。特に修学、学生生活は正課外教育の支援、学生バイトの留意点の説明等の丁寧で学生の立場に立った支援の体制が整えられている[0702a][0702b]。 インターンシップについて、現状は『農業』、『食品』、『医薬・化粧品』、『公務』の中の岐阜県公衆衛生検査センター・岐阜県農業技術センター・名古屋市衛生研究所・名古屋市農業センター・名古屋市緑化センター、が協力企業として連携しており、さらに協力企業を開拓し、学部独自の説明会などの検討を行っている。[0702c]
長所・特色 <箇条書き>	
0702	化学の補習授業を正課外に実施している[0702a]。 0702 学生のアルバイトへの注意事項を正課授業に取り入れている[0702b]。
留意点 <箇条書き>	
	*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0702	インターンシップの充実が望まれる。【B】



2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

総評	
0802	2016 年度に大学で策定された先端教育環境整備充実事業の計画に則り、学生院生共用研究機器室の整備が行われ、比較的利用率の低かった場所をより多くの学生が利用できるような施錠システムに改修し、分析装置など共用性の高い機器を集約できている。学生院生共用研究機器室の整備は 2017 年度を含む 2 カ年計画なので、まだ自己点検・評価をする段階まで到達していない[0802a][0802b]。
長所・特色 <箇条書き>	
0802	研究設備と機器の整備を計画的に進めており、限られたスペースと機器を有効に活用して、着任したばかりの研究環境が整っていない教員でも研究指導が実践できる環境を整えているのは素晴らしい[0802a][0802b]。
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0802	転出による主担当者の業務の引継ぎについて、業務の管理体制の早急な検討が必要である。【A】
0802	教育研究等環境に関する自己点検・評価の確実な実施を検討されたい。【B】

## ピアレビュー委員会（第 3 部会）

## 2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

総評
<p>0902 文部科学省 COC 事業の一環として位置づけられ、環境生物科学科を中心に岐阜県恵那市の本学研修センターを拠点として、土岐川・庄内川流域市民や源流域の行政、NPO 団体と協働して運営し、森の健康診断を実施している。また、愛知県ペストコントロール協会と連携協定を締結し、学生への業界紹介および業界の人材育成を目的として「第 1 回ペストコントロールカレッジ」を 11 月 8 日に開催し、その取り組みは業界機関誌に取り上げられ、今後の社会貢献が期待される。さらに、春日井市内ではサボテンを活用した地域活性化活動「春日井サボテンプロジェクト」が実施されており、本学部の教員、春日井商工会議所職員、市内事業者らが参加している。以上のように、地域社会と連携して様々な社会貢献を行っている[0902a][0902b][0902c][0902d][0902e][0902f][0902g][0902h][0902i][0902j]。</p>
長所・特色 <箇条書き>
<p>0902 地域市民と学生が主導する森の健康診断が実施され、会議が催された[0902a]。  有害生物に関する研究を日本ペストコントロール協会と協定を結び進めている[0902c][0902d]。  地域活性化事業「春日井サボテンプロジェクト」に参加している[0902e][0902f][0902g]。  第 2 回日本食品衛生学会の東海・北陸ブロック公開講演会を開催した[0902h][0902i][0902j]。  恵那地域および流域市民との協働体制が継続的に維持された、地域に求められた活動を実施しており、また、森の健康診断では、市民の啓発にとどまらず、文科省 COC 事業として認められ、地域との学生の共育がなされているのは素晴らしい[0902b]。</p>
留意点 <箇条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: right;">【A】・・・緊急の改善を要する事項  【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし

ピアレビュー委員会（第 3 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学部
--------	--------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評
<p>1120 教授会は、規程に基づき議長の承認を受けて開催通知し、議事録は事務局で作成し議長の決裁を経て本部へ提出されている。議事はあらかじめ同規程に位置づけられた主任会において、申し合わせに基づき事前協議を行っている。主任会には、専門常置委員会（学部教務委員会・共通機器委員会・学生実験委員会・学部選抜委員会）を規定し、固有事項の処理及び主任会より付託された事項を審議し、主要な内容は主任会へ報告・承認を得ている。常置専門委員会の活動に関しては、特に自己点検・評価を行っていない実情があり、今後は年度毎に自己点検・評価を行うようにし、PDCA サイクルを回してよりよい学部運営ができるよう努力されたい[1120a][1120b]。</p>
長所・特色 <箇条書き>
<p>1120 教授会、主任会が規定に基づき運営されている[1120a][1120b]。 議事資料は投影により紙の節減を図っていることや、また、あらかじめ構成員にメール送付し、ダウンロードしたPC等を持ち込み、議場において手元で確認することができる事が素晴らしい[1120e]。</p>
留意点 <箇条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>1120 常置専門委員会の運営規定について、整備されたい。【B】</p>